

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ

<http://www.kagyoren.jf-net.ne.jp/>



高松市北浜町8-25

TEL 087-825-0350

FAX 087-851-0699

謹賀新年

香川県漁業協同組合連合会

代表理事会長 嶋野 勝路



新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、本会業務運営につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、ここに厚く御礼申し上げます。

元号が令和に変わり祝賀ムードに沸いた昨年でしたが、本年7月には令和初のビッグイベントである東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。日本人選手団の活躍を祈るばかりです。また、国の大きな動きとしての、水産政策の改革は、一昨年12月に、改正漁業法が国会審議を経て可決・成立され、今年12月には施行されることとなっております。この法律は、「水産資源の適切な管理と、水産業の成長産業化を両立させ、漁業者の所得向上とバランスのとれた漁業就業構造の確立を目指す」とされていますが、今まで果たしてきた漁協の機能を、十分に活かした事業がこれからも継続されることを望んでいます。国内経済に目を向ければ、昨年10月に消費税が増税され駆け込み需要の反動で景気の落ち込みが心配されましたが、業種によって温度差があるようで景気もまだら模様を呈しています。また海外では昨年から続く米国と中国との通商政策を巡る対立の激化、それに伴う世界経済への影響が本年も続くと懸念されます。

一方県下漁業を振り返りますと、魚類養殖業では、漁業資機材の高騰、輸入水産物の増大、餌料価格の高値等のマイナス要因もあり厳しい状況が続いています。漁船漁業では、恒常化の一途を辿る魚価安や天候や海況の変化等の影響もあり、一部魚種を除き漁獲量の減少が続いて漁家経営の収

支に悪影響を及ぼしています。またノリ養殖業においては、水温の降下が鈍い影響で本張りが遅れ、魚等の食害により12月の生産枚数は以前に比べて少ない状況が続いていますが、年明けからの順調な生産増が期待されます。

本会といたしましては、引き続き県内水産業の振興に努めるとともに、「浜の活力再生広域プラン」に基づき漁船リース事業、機器等導入事業、令和元年度に創設された新リース事業を推進し、地域全体の競争力強化を図ってまいります。また、水産資源の安定供給及び漁業経営の安定を確保するため資源管理型漁業の普及啓発に努めるとともに、燃油及び配合飼料のコスト高騰対策である漁業経営セーフティーネット構築事業を推進してまいります。

昨年は漁協創立70周年の節目となる年であり、「漁協創立70周年記念香川県大会」を11月19日に開催し、優良漁協・功労者等の表彰及び香川型漁業の推進等を決議致しました。また「さぬき海の幸販売促進協議会」の事業として県内各地にてイベントを行いました。本年も昨年同様、関係団体、県、系統、業界が一丸となり県産水産物の販路拡大、知名度向上を一層推進するため活動してまいります。

今後も厳しい経営環境が予想される中、会員・所属員の経済的、社会的地位の一層の向上を目指して諸事業に取り組んで参る所存でありますので、会員各位をはじめ関係者諸賢におかれましては、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様方の限りないご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。



香川県かん水養殖漁業協同組合

代表理事組合長 高野 勇

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年のかん水養殖業を振り返りますと、ハマチ、カンパチの種苗の搬入は、カンパチが昨年より120円高く、若干苦勞しましたが、ほぼ順調に搬入ができました。搬入後は台風などの自然災害で、陸上施設の被害や、8月後半に赤潮警報による餌止めが一部地域で発生しましたが、海上の養殖施設や養殖魚に大きな被害の報告はありませんでした。

生育状況については、ハマチ、カンパチ共に昨年と同じく若干の成長遅れではありましたが、例年通り9月中旬から出荷が開始されました。カンパチは1,450円からのスタートで、昨年より1ヵ月遅い12月中旬での完売となり、ハマチは昨年より80円安い800円からのスタートで12月には720円となりました。県内のハマチ約6万尾程が年越しを余儀なくされましたが、1月中旬頃には完売する見通しとなっております。

養殖業者にとって大切な餌飼料が世界的な天然資源の減少、加工向けや輸出などの需要の増大により、価格が高騰し高止まりしております。しかしながら、養殖魚の販売価格は、水産物の消費低迷、輸入水産物の増大、産地間競争の激化などにより下落しており、魚類養殖漁家は極めて厳しい経営環境が続いております。

かん水養殖業では本年も、消費者に安全で安心な高品質の養殖魚を提供する為、日々、額に汗して魚類養殖に取り組んでまいります。また、香川県ブランドの販路拡大、販売促進に官民一体で組織する「さぬき海の幸販売促進協議会」と協力して、県産ブランド魚であるハマチ3兄弟、ひけた鯛、なおしまハマチ、オリーブハマチと3年目となるオリーブ真鯛の販路拡大とブランド強化についても積極的に取り組んで参ります。餌飼料価格の高騰対策としては、セーフティーネット構築事業や生餌調整保管事業等の推進に引き続き尽力していきたいと思っております。

本年も県水産課並びに香川県漁連、系統団体と更に連携を深め、役員一同基本に立ちかえり、地道に、ひとつずつ、目の前のできることから取り組んで参りたいと思っておりますので、尚一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、関係各位の皆様のご健勝と益々のご繁栄を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

一般社団法人 香川県海苔養殖研究会

代表理事会長 西口 正弘

新年明けましておめでとうございます。

令和2年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は元号も平成から令和に変わり新たな時代の幕開けとなりました。また、10月には消費税も10%に引き上げられ、生活に与える影響が懸念されます。

昨年度のノリ養殖を振り返りますと、一部の地区を除き食害、生理障害が原因と思われる伸び悩み等により、生産量の減少が顕著でありました。しかし、九州地区をはじめ、全国的に不作であり、高値で推移しました。結果、順調であった浜は例年並み、若しくはそれ以上の水揚げがあったものの、食害等の被害に遭われた浜、及び、個人の差が大きく出た年でもありました。

さて、11月末頃より本張りが開始されましたが、浜によっては水温、食害の状況をみながら1週間程度遅らせたようです。12月の生産はあまり伸びませんでした。

そんな中、第1回の共販が行われました。例年よりかなり少ない数量となりましたが島しょ部を中心に約314万枚の出品がありました。本年も昨年同様全国的な不作模様で、平均単価は15円34銭（昨年13円87銭）という結果になりました。

また、生産者の減少に歯止めがかからない現状、後継者育成についても特に、尽力を注いで行く覚悟です。昨年度は本県同様に食害被害を蒙っている千葉県富津市に出向き意見交換を行いました。

尚、香川ノリの普及PR活動に於いても各種イベントに参加、協力し消費拡大に繋がりたいと思っております。

最後になりますが会員各位、関係者の皆様のご健勝と本年ノリ養殖の豊作をもって皆様が笑顔で漁期終漁を迎えることが出来ますことを祈念申し上げます。年頭のご挨拶と致します。



香川県無線漁業協同組合

代表理事組合長 嶋野勝路

新年、明けましておめでとうございます。

令和2年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当組合の事業運営につきまして、組合員の皆様を始め、関係官庁・関係団体の皆様には、格別のご支援を賜り誠に有難うございます。

さて、昨年の本県における漁船の衝突事故や海中への転落による死亡事故はありませんでしたが、漁業用無線は、緊急時の情報や操業の安全、漁獲情報を一斉送信できるなど、優れた機能を持っており、近年では漁業用無線を装備した漁船による事故の対応として、緊急支援システム等の事故情報を発信する装置の開発が進んでおります。また、デジタル無線機であれば、受信した各種気象情報や緊急通報などが文字で蓄積される優れた機能があり、漁船の安全性の向上等に貢献することが期待されます。衝突事故や海中転落による死亡事故防止のためにも、漁業用無線の活用やライフジャケットの正しい着用で、操業安全に心掛けて頂きたいと思っております。

昨年度は、国の29年度補正予算において、操業中の漁船に対してミサイル発射情報を迅速に伝達し、操業安全の確保を目的に、「漁業安全情報伝達迅速化事業」が措置され、当組合では8海岸局が導入しました。

この事業は、北朝鮮からミサイルが発射された情報を速やかに伝達できるよう全国にある海岸局の情報端末で音声に変換し、自動で船舶局に情報発信するシステムを導入するもので、昨年、飛翔体及び短距離弾道ミサイルが発射された際に活用され、海岸局を通じて船舶局へ情報が発信されました。迅速な情報発信体制が整備されたことにより、漁業操業の安全性がより確保されたと考えております。

本県の漁業を取り巻く環境は、漁業後継者不足、漁獲量の減少など依然として厳しい状況下にあります。当組合におきましても、高齢化に伴う組合員の減少や無線利用者の減少が続く厳しい状況ではありますが、本県の基幹漁業である漁船漁業の発展のため、漁業無線の円滑な運用に努めていく所存ですので、組合員各位をはじめ、関係官庁並びに関係団体からのご指導・ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、皆様方のますますのご健勝とご繁栄を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

一般社団法人 香川県水産振興協会

会長 嶋野勝路

新年明けましておめでとうございます。

令和2年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当協会の業務推進につきまして、会員を始め関係者皆様には格別のご支援、ご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、度重なる台風の襲来を受け、甚大な自然災害が多かったように思います。本年も不安定な気候が懸念され、水産資源に与える影響も気がかりなところです。

また、漁船漁業では豊漁となった魚種も見られましたが、多くの魚種で漁獲量が減少しております。特にイイダコ、アナゴなどは減少が著しく、資源回復を切に願うところです。

当協会の事業としましては、4月初旬から11月下旬までマダコ、ヒラメ、クルマエビ、キジハタ、メバル等の重要魚種の種苗放流を例年どおり実施し、水産資源の維持増大に努めました。また、水産資源の維持とともに魚食の推進が大きな課題となっております。県下で水産食育教室を開催し、学校給食にはハマチをはじめとした県産水産物の食材活用を推進しました。

近年増加している海中転落をはじめとした海難事故については、関係機関と連携し、ライフジャケットの着用推進も継続して努めております。小型漁船の着用義務化をはじめ、会員の皆様に法令遵守に努めていただくようお願い申し上げます。併せて、ネットローラーの巻き込み防止装置につきましても設置推進を図ってまいります。

漁場環境保全対策事業としては海浜清掃事業等の支援を行いました。昨年も度重なる大型台風による影響で、大量の浮遊漂着ゴミが県下海域で発生したため、回収に大変苦勞された地域も多かったと聞いております。

最後に、令和2年度が事故無く豊漁となりますよう祈願し、併せて会員並びに関係者皆さまのご活躍とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



全国漁業協同組合連合会

代表理事会長 岸 宏



あけましておめでとうございます。年頭にあたり、全国の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

振り返りますと、昨年も多くの自然災害に見舞われました。中でも、夏から秋にかけて

発生した台風等による被害は甚大であり、被災された会員はじめ関係の皆さま方に衷心よりお見舞い申し上げる次第です。私自身も千葉県の実地を訪問し、会員並びに関係者皆さまの復興を願うお気持ちによる多額の系統募金をお届けさせていただくとともに国に対し、1日も早い復旧・復興の支援を要請したところであります。現地では復興に向け着実に歩みを進めており、ここに改めまして皆さまのご協力に御礼申し上げます。

昨年は、元号が平成から令和に代わり、漁業界においても大きな変化の年となりました。一昨年末に行われた70年振りの漁業法改正を受け、わが国漁業の成長産業化に向けた本格的な改革が始まりました。この改正にあたり、我々JFグループは現状をしっかりと点検しながら自らの課題として改革に取り組み、「漁業と漁村再生の良い機会としたい」ということを基本に対応して参り、最終的には苦渋の決断ではありましたが、これを受け入れることに致した次第であります。ただし、改革の成果を上げるためには、その実践者である漁業者が本当に理解し、納得できる内容となることが不可欠です。本会では引き続き、国に対し、漁業者が理解し、実践できる内容になるよう求めて参る所存であります。

そして、昨年11月には安倍晋三内閣総理大臣のご臨席の下、全国から1,000名の漁業代表者が参集した「JF全国代表者集会」を開催し、「漁業者自らが進める浜の構造改革」、「浜の改革を支えるJFグループの改革」、「新たな制度等への的確な対応」、「地域社会・地域漁業への貢献」の4つの取り組みを柱に据えた5か年の運動方針をグループ総意の下、採択し、グループ一丸となって組合員の所得向上に向けた改革に邁進することを決議しました。

昨今、サンマやイカ、秋サケ等の大不漁、外国船による違法操業問題などの課題が山積しており

ます。このような状況を踏まえ、我々は、漁業者とともに自らの役割と使命を再確認し、山積する課題に的確に対応しつつ、漁業の成長産業化に向けた浜の構造改革を進め、新たな運動方針の下、組織の総力をあげて取り組んで参る所存です。

最後になりますが、漁業の輝かしい将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆さまの操業の安全と豊漁、ご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

乾海苔初入札

令和元年度県内産養殖ノリ（乾海苔）の初入札会が、12月15日（日）高松市瀬戸内町の本会共販所において開催されました。



第1回共販の様子

今年の本張りについては、海水温の低下が鈍い為、前年より遅い張り込みになりました。その後、風波・食害等の影響もあり、12月上旬からの生産となりました。

結果、初共販の出品枚数は少なく、3,135千枚（昨年5,061千枚）前年対比62%、入札金額は48,097千円（昨年70,214千円）前年対比69%、平均単価は15.34円/枚（昨年13.87円/枚）前年対比111%（1円47銭高）でした。また、12月24日（火）に開催された第2回共販結果は、入札枚数13,077千枚、入札金額182,208千円、平均単価は13.93円/枚でした。これから県下全地区で本格生産に入りますが、今漁期の豊作を心より期待致します。

今年の共販日程は

1月11日（土）・17日（金）・28日（火）

2月8日（土）・19日（水）

3月5日（木）・17日（火）・31日（火）

となっています。